



私の3冊

稲澤明香

後輩に薦める 2 冊

福井罔彦，藤田 勉，宮坂元磨（編）

脳卒中最前線（第3版）—急性期の診断からリハビリテーションまで
医歯薬出版，2003 年発行

この書籍は，脳卒中のリハビリテーション診療のなかでよく経験する，新人では，どうしてもよいか疑問にもちやすい事象が多く取り上げられており，その解決の糸口となります。私が研修医時代によく読んでいた1冊です。脳卒中の病態・症状の発生機序（病巣）の整理，また，症状に対しての具体的な対策まで，この1冊にまとまっていると思います。

神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会（著）

脊髄損傷マニュアル—リハビリテーション・マネージメント（第2版）
医学書院，1996 年発行

脊髄損傷の急性期・合併症マネージメントから，リハビリテーション，車椅子などの補装具関係，そして社会復帰支援まで，一通り書かれています。この第2版でも20年前発刊のものになりますが，著者らの長年にわたり培われた診療技術が詰まっており，脊髄損傷のリハビリテーションの基本を押さえるには，とてもよい1冊だと思います。

自分の 1 冊

伊藤利之（監修）

発達障害児のリハビリテーション—運動発達系障害と精神発達系障害
永井書店，2008 年発行

現在の勤務先では，小児のリハビリテーションも多く担当するようになりましたが，小児期は患児の障害対応だけでなく，患児本来の成長発達を促し，社会生活の自律へ向けた支援，また保護者への支援など，療育という小児期ならではの視点があり，これらを含めて小児のリハビリテーションを学ぶことができる1冊です。著者も序文で述べているように，横浜の療育システムという独自性がある内容ですが，基本的な療育の考え方，子ども・保護者への対応方法などは参考となると思います。

■ いなざわ・さやか 医師 12 年目 横浜市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション科

横浜市立大学附属病院リハビリテーション科での後期研修を経て，現在のリハビリテーションセンターに勤務しています。ここでは，医療施設，障害者支援施設，就労支援施設，療育施設，在宅リハビリテーション事業，障害者スポーツ施設などが併設・運営されているので，対応する疾患やリハビリテーション支援の内容は幅広いと思います。疾患としては，特に，脳卒中，脊髄損傷，脳性麻痺の方の診療を行うことが多いです。